

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「海」・「山」・「まち」地域資源を活用し「新しい生活様式」に対応した体験型観光拠点整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

広島県坂町

3 地域再生計画の区域

広島県坂町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本町は、「悠々健康ウォーキングのまち」を宣言し、鉄道駅3駅を起点・終点とし、まち中から海沿い、山道まで個性豊かなウォーキングコースを整備している。また、全長1.2kmに及ぶ西日本最大級の人工海浜「ベイサイドビーチ坂」があり、夏季には海水浴客で賑わうが、飲食・物販施設がないため、その他の季節では賑わいが少ない状況にある。海岸線まで山が迫り、交通の利便性も高い状況にあり、観光資源としてのポテンシャルは、十分に有しているが、単発のイベント開催に終始するなど、通年での賑わいを創出する有効な施策を講じることができていない。さらに、コロナ禍におけるイベントの中止により、交流人口が減少している。このような状況にあることから、ウイズコロナ時代に対応した「三密」を回避し、アウトドア体験を楽しめ、テレワーク（ワーケーション）することができる拠点施設を整備する。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本町は、政令市の広島市、中核市の呉市の間に位置し、鉄道駅が3駅あり、幹線道路も整備され、両市の中心地まで、鉄道や車で約20分という交通利便性が高

い町でありながらも、海と山に囲まれ、自然豊かな町である。このような本町の特性を最大限活かすため、広島県管理の施設である「ベイサイドビーチ坂」を県から管理を受託し、前面の海を活用したカヤック、SUP体験、背後地の山を活用したトレッキング等、「三密」を回避しながらアウトドアアクティビティを提供する機能とアウトドア用品、地域産品を販売する機能を併せ持つ整備をする。また、施設内に地元農産物、牡蠣等の海産物を食材として提供する飲食店を整備することで、地域内の第1次産業活性化に繋がる拠点として、町の資源を最大限連携させ、県内外はもとより海外からの交流人口の増加を目指すとともに、関係人口の増加に繋げることを目指す。さらに、新しい働き方に対応できるよう、施設内にテレワークをすることができるスペースを設置し、ワーケーションも可能な施設とする。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2021年度増加分 1年目	2022年度増加分 2年目
観光拠点施設の売上高(千円)	0	0	28,000
アウトドアアクティビティ体験者数(人)	0	0	300
観光拠点施設における雇用者数(人)	0	0	8

2023年度増加分 3年目	2024年度増加分 4年目	2025年度増加分 5年目	K P I 増加分 の累計
6,000	4,000	2,000	40,000
200	100	100	700
1	1	0	10

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

「海」・「山」・「まち」地域資源を活用し「新しい生活様式」に対応した体験型観光拠点整備事業

③ 事業の内容

コロナ禍により、「三密」回避などの感染予防が求められる中、アウトドア志向が高まっており、計画地前面の「海」、背後の「山」、都市近郊である「まち」の立地を活用し、シーカヤック、SUP、トレッキング等のスポーツプログラムが提供可能なアウトドアショップを誘致し、繰り返し施設に訪れるファンを開拓することにより関係人口の拡大を図る。さらに、地域の農水産物を活用し、地産地消の飲食や地元特産品を購入することができる施設もあわせて整備するとともに、テレワークスペースも整備し、ワーケーションすることも可能な施設とする。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

施設入居テナント収入と施設内での物販、レンタル品の貸出、テレワーク（ワーケーション）施設使用料による収入により、継続的な運営を行うことを目指す。また、包括連携協定の締結を予定しているアウトドアメーカーと連携し、ニーズにマッチしたイベントを定期的を開催する講習料による収益により当該施設のランニングコストを確保し、自立性を担保していく。

【官民協働】

本計画は、住民代表、地元商工会、漁業協同組合、大学講師、大学生、ビーチ利用団体、金融機関による「ベイサイドビーチ坂賑わい創出ワーク

ショップ」の提案により生まれた計画である。包括連携協定の締結を予定しているアウトドアメーカーと連携し、来訪者がアウトドアアクティビティを体験できるようにレンタルサービスを提供するとともに、海面を活用したカヤック、SUP、背後地の山を活用したトレッキング等、幅広く多様な自然体験メニューを提供し、当該施設の魅力向上を図る。また、本町、自治会、商工会、大学、高校、町内各種団体で構成される「みなとオアシスベイサイドビーチ坂運営委員会」と協働により、ベイサイドビーチ坂での定期的なイベントを開催することにより、当該施設への来訪者の増加を図る。さらに、テレワークを推奨している周辺企業に対し、施設の広報活動をおこない、「ワーケーション」として活用していただく。

【地域間連携】

本町は、広島広域都市圏連携中枢都市圏（広島市他24町）、広島中央地域連携中枢都市圏（呉市他7市町）により、連携協約を締結し、観光施策についても連携をおこなっている。本町周辺には、大和ミュージアム（呉市）、世界遺産である原爆ドーム（広島市）、厳島神社（廿日市）など全国的にも有名な観光スポットがあり、本町にシンボリックな観光拠点を整備することにより、連携したPRや、周辺エリアと連携したモデルコースを作成するなど、更なる地域間連携に取り組むことにより、都市圏の魅力向上に寄与する。また、ウィズコロナを見据えて、広島広域都市圏におけるワーケーションの需要を取り込み、新しい生活様式に寄与する。

【政策間連携】

地域で有数の観光資源であるベイサイドビーチ坂は、国土交通省から「みなとオアシス」に認定されており、本町の地域資源である「海」・「山」・「まち」を最大限活用した本町のシンボリックな観光拠点となる施設を整備することにより、交流人口の増加を図る。また、来訪者が幅広く多様な自然体験メニューを提供することにより、繰り返し来訪するファンを獲得し、交流人口から関係人口への増加につなげていくとともに、地元産品の販売、地元食材を提供する飲食エリア（コロナ対応のためのテラス

席も設置)を整備することで、地場産業の生産性、収益性の向上、および地元の雇用拡大につなげていく。さらに、テレワーク(ワーケーション)することができるスペースを設置することにより、ウィズコロナ時代における新しい生活様式に寄与する施設となっている。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度6月頃に外部有識者により構成される坂町総合戦略推進会議において、KPIの実績値及び事業内容を検証する。

【外部組織の参画者】

広島修道大学名誉教授、もみじ銀行坂支店長、広島安芸商工会坂支所所長、東部流通団地協議会代表、坂町住民福祉連絡協議会会長、一般公募

【検証結果の公表の方法】

総務部企画財政課が毎年度末のKPI達成状況を取りまとめ、外部有識者で構成する坂町総合戦略推進会議において効果検証の後、町ホームページにより公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 399,850千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から令和8年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) みなとオアシスにぎわいづくり事業

ア 事業概要

広島広域都市圏域内のみなとオアシスに認定された港のある各市町が連携して、PRブースを出展するなど、お互いのみなとオアシスのイベントに参加するとともに、イベント情報の相互発信やイベント共催に向けた検討等を行う。

イ 事業実施主体

広島広域都市圏協議会

ウ 事業実施期間

令和3年4月1日から令和8年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から令和8年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。